

泉大津市第5次障がい者計画(案)に対するパブリックコメントの結果について(報告)

◇募集期間：令和4年12月19日(月)～令和5年1月18日(水)

◇募集方法：郵送、ファックス、電子メール又は障がい福祉課へ持参(また、市内公共施設等に意見書募集箱を設置)

◇提出人数：2人

◇意見件数：4件

◇意見概要及び市の考え方

	意見・提言の概要	市の考え方
1	<p>【障がいのある人への理解促進】について</p> <p>アンケート結果で「市民、企業における合理的配慮の認知度はおよそ3割」とあった。啓発活動の一環として市民・企業向けに「障がいのある人に対する理解」を深める事を目的とした地域フォーラムや研修会を定期的で開催されると良いのではないか。</p>	<p>「基本目標1 障がいへの理解を深める」の「権利擁護の推進」の事業において述べている通り、講演会の開催や市の広報媒体を用いての障がい理解啓発を行ってまいります。</p>
2	<p>【協力他機関との連携】に関して</p> <p>CSWは障がいのある人に直接対応する機会もあり、案内できることもある。新たな障がい福祉施策・取り組みがある際は、(その取り組みの)冊子や案内文などを情報伝達していただきたい。</p>	<p>「基本方針5 地域で連携する」の(1)連携・協働のネットワークの構築の施策に該当いたします。今後も、新たな障がい福祉施策や取り組み、制度が進む際には、関係機関、団体の方々と情報共有をさせていただきます。</p>
3	<p>【災害時】について</p> <p>「災害時に避難を可能とする障がいのある人・児童は少なく～」とあるが言葉の言い回しが難しく思える。「災害時に避難可能な障がいのある人・児童は少なく～」はいかがか。</p>	<p>ご指摘の通り修正させていただきます。</p>

4	<p>【基本方針5 地域で連携する】について</p> <p>(2) 防犯・防災対策の充実の項目に強い関心がある。</p> <p>私自身は津波浸水区域に住んでいて、独居高齢者でもあるため、災害発生時には速やかに避難できるよう準備をしているが、いざ津波災害が発生した際には自分の身を守ることで精いっぱいになると思われる。津波浸水区域に住む障がいのある人は、災害が起こったときどうするのか。周辺の住人も高齢者が増えており、いざという時に頼れるかどうか不明である。そのようなこともあり、障がいのある人も普段から避難訓練に参加したり、防災グッズを用意しておくことがとても大事であり、障がいのある人に対して、災害時に備えることなどの啓発に力を入れて欲しい。</p>	<p>市では、障がいのある方など、自力での避難が難しい方の避難を支援するため、「避難行動要支援者名簿」を作成しています。この名簿を自治会や自主防災組織、民生委員・福祉委員と日頃から共有し、避難体制の確保に努めております。</p> <p>また、防災はご自身においても取り組むことが大切です。このため、市では、これまで取り組んできた防災訓練や出前講座に加え、幅広い方に興味・関心を持っていただけるよう、「楽しむ」と「学ぶ」を両立した防災イベントにも力を入れております。</p> <p>例えば、令和3年1月に開催した防災イベントでは、避難所体験コーナーや被災地に派遣されたキッチンカーによる炊き出しなどを行いました。イベントには400人近くの方が来場し、「家庭の備え」について考えていただく機会となりました。</p> <p>また、本年1月には、自宅やオフィスなど、どこからでも参加可能な、オンライン型の防災訓練を開催したところで</p> <p>障がいのある方を含め、お一人お一人に備えに取り組んでいただけるよう、興味・関心を惹きつけ、各自の防災意識向上に繋がる啓発方法を、引き続き企画してまいります。</p>
---	--	---